

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1295100026
法人名	社会福祉法人 八光聴
事業所名	多古グループホーム
所在地	千葉県香取郡多古町南玉造460-81
自己評価作成日	令和 3年 5月 10日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽
所在地	千葉県旭市口1004-7 TEL 0479-63-5036
訪問調査日	令和 3年 5月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の入れ替わりが少なく、職員の顔ぶれもほとんど変わっていない。入居者家族とも顔なじみで安定した関係性を維持している。新型コロナウイルスで家族との面会や外出もままならない日々だが、個々の職員が愛情をもって入居者に接し家族のように協力して生活の場を作り上げるようにしている。利用者は認知症の進行で出来ないことが増えてきているのが現実だが、残されている能力を大事にしその能力を維持できるように、職員会議は勿論の事、日々のミーティングの時間も利用してケアの仕方を話し合う機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナ禍で大変な中今年度は、ワクチン接種等が少しずつ進み、利用者や家族の面談や外出支援等色々とスタッフ全員で工夫をしています。職員の向上を目指し、年間の計画をたてて内部研修を行っています。日々ケアの仕方等は話し合う機会を設け実施されています。今年度はコロナ禍で外部研修は参加しやすいように取り組んでいますが実施できていません。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を玄関に掲げてあり、理念を目にすることで意識して実践につながるようにしている。	理念は「地域との触れ合いを大切に、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく楽しく、自由な生活を送れるように支援します」と、玄関に掲示され、日々理念に基づき実践に活かされています。	法人の事業が多角化し、地域密着型サービスの意義をふまえ、職員参画のもとで事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげて頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で今までのように外出の機会を作ることや外部との交流は困難になっている。ドライブに行ったり多古広報を見たりしながら地域の一員として過ごせるように努力している。	新型コロナ禍で活動の自粛や人が集まる事が困難な中、お便りや広報等を発信したり繋がりが切れない工夫等を考えていただきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響を受け外部との接点は少なくなってしまう。外部の方の電話での相談を受けたり、家族とは入所者の近況報告の際に話し合う機会をつくるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議そのものが出来なくなってしまっているが、家族や外部の関係者からの意見は職員で共有している。より良いサービスを目指すにはどうしたらよいか話し合う機会を持つようにしている。	コロナ禍で今までの生活が、今までと同じようにできない中、運営推進会議そのものが出来なくなっています。その中で色々と工夫をし、少しでも話し合う機会を持てるよう努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携に努めている。昨年始めたオレンジサロンはコロナの影響でストップしてしまい、地域のサロンにも参加できなくなっている。入居者・職員ともに残念に感じている。	市町村との連携は日頃からできております。オレンジサロンや地域のサロンにもコロナ禍で参加することができなくなっており、職員が雰囲気を帰る工夫をしたりしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上やむを得ない時を除き鍵をかけないのは勿論の事、「これは拘束にあたらぬか」職員間で話し合い確認しあいながらケアに取り組んでいる。言葉による拘束については特に意識するようになっている。	日頃から身体拘束や言葉による拘束については勉強会や職員間で話し合い確認し合いながらケアに取り組まれております。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者と職員の関係は良好で虐待と思われる様な事案はない。虐待はあってはならないものとの共通意識のもとでケアにあたっている。目に見えにくい言葉による暴力についても注意し入居者の人格を尊重しながら接している。		

〔評価機関〕

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について改めて学ぶ機会は少ないが後見人制度を利用している利用者もいるので、現場として必要な知識等を中心に学ぶ機会を作るよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は可能な限り施設内や利用者の様子を実際に見てもらい、本人や家族に理解して頂けるようにしている。話しやすい雰囲気を作り不安や疑問があればその場で話し合えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に置き自由に意見を入れられるようにしている。管理者や職員に直接意見や要望を伝えることも出来る。意見や要望は職員間で共有し運営やケアに反映させている。	意見箱、アンケートはがき等が置かれ自由に意見が出せるようになっていますが、昨年度からの新型コロナ禍で自由に訪問できる状態ではなく、お手紙や電話等での対応になっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議や毎日のミーティングの中で意見や提案を汲み上げて柔軟に対応、反映させている。議事録を作りいつでも確認が出来るようにしている。管理者と職員の個別面談等での聞き取りも行っている。	管理者、職員が自由に意見を述べる事が出来る環境になっています。定例会議や毎日のミーティングの中でも柔軟に対応されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や個々の事情を考慮し積極的に仕事に取り組める働きやすい職場環境を整備している。個別に面談し個々の力を発揮できる職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で外部研修への参加は勿論、施設内の研修も困難になっている。初任者研修やその他の研修など再開し始めた研修への参加の機会を確保できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流したい気持ちは持ち続けているがコロナ禍の状況で難しい。今後の状況を見ながら交流やネットワーク作り・勉強会への取り組みを再開しサービスの向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期に本人・家族と十分に話し合い、希望や思いを汲み上げている。その後も担当を付け困っている事、不安な事、本人の安心のためにどうしたらいいか関係性作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から入所までのお話をゆっくりと聞き取るよう心掛けている。家族の気持ちに寄り添いながら入所後の希望・相談等を受け止め、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人に新しい環境に慣れて頂くことから始めている。本人の様子をよく観察しながら、必要としている支援を見極めて改善に向けた援助の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る力を奪わないように出来ることは一緒に行うように努めている。活躍の場面を作り、出来たことは一緒に喜び一緒に生活しているという実感を持てるような関係性を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会もままならないが、入居者の日頃の様子を、担当からの近況報告として写真入りの手紙で伝えている。本人手書きの年賀状や電話で離れて暮らしていても関係性や絆を継続できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同一敷地内の施設との交流や外出等が出来ない状態が続いている。自宅近辺などへのドライブでせめて馴染みの場所との関係が保てるようにしている。	同一敷地内にケアハウスや特養、デイサービスがあり、友人が来ている日には会いに行ったり、外出や外食、行事等に参加したり昔の友人等に会うことがコロナ前は出来ましたが今は馴染みの場所へのドライブ等で対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者間の関係性を理解しトラブルにならないように席を変更したり気を配っている。特に耳の遠い方との会話には気を配っている。また居室にこもりがちの方には孤立しないようレクに誘ったりしている。		

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院しそのまま鬼籍に入る方もいた。見舞いに行きたい気持ちは職員間で共通して持っているが面会もままならない。家族への電話で状況を伺ったり相談に乗ったりしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が職員に何でもいえる関係性を目指し、何気ない会話や日頃の様子から本人の希望や意向を把握できるよう努めている。職員間で情報を共有し本人のしたいことが出来るよう見守りや支援をしている。	日頃の支援の中から本人の希望や要望を担当スタッフが把握に努めています。スタッフ間で情報を共有し、皆で見守り支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査表・本人や家族からの聞き取り・以前利用の事業所や担当ケアマネへの問合せも行い参考にする。本人や家族との何気ない会話の中からヒントをもらいこれまでの暮らしを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録・ミーティング等・申し送りノートで職員間の情報交換を密に行い、個々の生活や心理面等の変化を把握し共有するよう努めている。夜間の様子については特に気にかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しは家族と対面で行うようにしていたが止むを得ず文書でのやり取りとした。利用者に変化があればまめにカンファレンスを行い意見やアイデアを出し合い支援に反映するようにしている。	コロナ禍で家族との対面での聞き取りが難しく電話やお手紙等での対応になり、その中でもチームケアを大事にし、支援を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や通院記録、検温版等を利用して身体状況、生活状況を職員間で共有して理解を深め、ミーティングなどの場で話し合いケアプランの見直し・評価につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍での制限はあるが通院の送迎、外出の支援はホームで柔軟に対応している。本人の希望に応じて可能な限りの対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や利用には努力しているがコロナウイルスの影響で大きく制限されている。状況を見据えながら活動の場が広がっていくことを望んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に継続してかかっている方が多い。通院を自粛していた時期もあったが感染症対策をしっかりとしながら通院再開している。必要な時には家族と同行し共通理解を深めるようにしている。	コロナ禍で通院を自粛していたが、しっかり感染症対策を取り家族との連携も取り職員同行や必要な時は家族の支援も受け適切な支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問で健康チェックをお願いしている。訪問日には日々の様子や気づきを伝え適切な指示・助言を受ける。急な体調変化時には電話で相談し緊急訪問を受けることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りには努めているが時節柄まめな行き来は困難になっている。病院関係者との情報の交換や相談は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診時・入院時等に家族や主治医と話し合いを行い、本人・家族の希望を丁寧に聞きとり事業所として出来ることを説明している。主治医・訪問看護ステーション・家族の協力を得ながら支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のケアについては入所時に話し合いのもと同意書を頂いています。対応が必要な時は主治医、訪問看護ステーション、家族の協力を得ながら対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生に備えて応急手当や初期対応の訓練を行っている。また実際の場面での失敗や反省点を共有し今後に生かせるよう話し合っている。感染症についても研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。長期にわたる停電などの教訓を活かし想定外の事態に陥った時にどうするか様々な場面を想定した準備や訓練の必要性を痛感している。法人との協力が必要。	一昨年の千葉県での台風での長期にわたる停電等の教訓を生かし、法人との協力体制でマニュアル等の見直しを進める体制を検討されています。	

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの方にあった声の大きさや分かりやすい言葉を選ぶなど配慮している。利用者の反応を確認しながら声掛けしている。	コロナ禍で、外部研修は昨年からは実施できていませんが、内部研修やミーティングで話し合い一人ひとりの利用者に向けた対応を職員間で共有が図られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者が思っていることを遠慮なく言いやすい環境を作るようにしている。「どうしたいか」「どちらがいいか」などと確認し自分で選ぶ機会を多く取り入れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせて起床・就寝・食事時間・日中の過ごし方等柔軟に対応している。散歩に行きたい、日光浴したい方には付き添い、室内で過ごしたい方には音楽や読書を楽しんでもらったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には鏡に向かい身だしなみを整えて頂き、外出の際にはいつもよりおしゃれを意識してもらえよう心掛けている。着替えの際など相談しながらその方の好きな服装が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物を楽しめるように工夫している。自分たちで下ごしらえをしたり、行事やおやつで昔懐かしい食べ物を作る機会を設け出来る力を発揮したり好みの味を作ってもらおうようにしている。	コロナ禍で、外出や外食の機会がなくなり、テイクアウトや行事で昔懐かしいお菓子作り等で利用者と一緒に作る機会を増やしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に応じて刻んだりろみをつけたりして食事や水分を提供している。摂取量は毎回チェックし職員間で情報を共有している。摂取量の少ない方には好みの飲み物やおかずを個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎予防のためにも毎食後の口腔ケアを習慣にしている。出来るところまでは本人にして頂き仕上げやチェックを職員が行っている。ケアによって本人の歯を残したいが現実には難しい部分もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しその方の排泄リズムに合わせてさりげなくトイレに誘えるよう努力している。体調や状態に合わせてパッドやリハパンの見直しをしたり工夫している。	スタッフが一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気無くトイレ誘導が来ています。パッドやリハパンの使用も工夫されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり運動の声掛けや散歩に誘うなど努力しているが、現実には下剤に頼らざるを得ない方が多い。本人の負担が少なく定期的に排便できるよう職員間で話し合い、主治医や看護師にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けはその方のペースや希望を尊重している。長湯になりがちで体調面が心配な方には短い時間でも満足できるよう工夫をし、入浴で疲れがちな方にもその方に合わせた入浴方法を検討している。	一人ひとりの希望を尊重し、体調面やその方のペースで満足できるよう工夫をしています。また季節の入浴も取り入れて、楽しく入浴できる工夫もされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床や起床の時間は個々にあわせている。生活習慣や体調を見ながら休息の時間を作っている。夜間は安心して眠れるように明るさ等にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や数量は一覧表を作り、個人別にすぐ確認できるようにしている。薬が変わった時は連絡ノートで申し送り体調の変化を記録に残すように習慣付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外部との交流が難しくボランティアの受け入れや外出・外食などが出来なくなっている。施設内でのゲームや散歩、ドライブ等で気分転換を図ってもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症予防のために自由な外出は制限されている。本人の希望で散歩をしたり日光浴を楽しんだり、ドライブに出かけたりできる範囲で外出支援を行っている。特別な事情で外泊された方もいた。	今までは、皆で定期的に外出したり外食も出来ていたが、コロナ禍で皆での外出や外食が出来なく、本人の希望で散歩や日光浴を楽しんだり、個別でのドライブに出かけたり出来る範囲で、支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてお金の管理はグループホームで行っているが本人に支払いをしてもらう事もあった。現在は外出が制限されているので本人管理で財布を持っている方もお金を使う機会がほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば電話をすることが出来る。手紙を書いて投函することも自由。家族や知合いに手紙を書くことを楽しみにしている方もいる。年末にはみんなで年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるよう換気や湿度の管理には気を配っている。日当たりの良い所でゆっくりと日光浴や一人の時間を楽しめるスペースを作っている。車椅子やシルバーカーでの移動を含め危険のない動線の確保を心掛けている。	共有空間は、生花が飾られて季節を感じられ、室内も車いすやシルバーカー等の移動を含め危険のない動線の確保も心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ等皆で過ごしたり独りになったり各々が工夫している。職員は常に個々の表情を見ながら心地よく過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を居室に置いたり、写真やカレンダーを飾るなど工夫している。本人の作品(塗り絵や短冊など)も壁に張ったりしている。	室内には、入所前からのものが置かれ、衣類等の入れ替えは家族と一緒にしています。本人が居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出入口、トイレ、自分の居室等は表示をして分かりやすくしている。手すりを利用して立ち上がりやすく歩きやすいように工夫している。		